



三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2025-2026
クラブテーマ

友に学び、ともに歩み、共に成長



2025. 9. 1

第一例会

No.2535 No. 7



会長挨拶
三条南ロータリークラブ
会 長

本 村 譲

去る8月25日に開催いたしました「友人ご招待会」を兼ねた納涼会には、多くのご参加をいただき、誠にありがとうございました。今回は、初めての試みとしてゲストの方々をお招きしましたが、結果として7名ものゲストにご参加いただけたことを大変嬉しく思います。これもひとえに、皆様が日頃からロータリーの仲間を増やそうとご尽力くださっているおかげです。

ご参加いただいたゲストの方々へのフォローを、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。もし、街中で再会する機会があれば、「また遊びに来てください」と温かく声をかけていただけると幸いです。また、もしお仕事などで何か協力できることがあれば、ぜひお声がけいただければと思います。

さて、9月はロータリーの「識字率向上、基礎教育月間」です。三条南ロータリークラブには現在、ロータリー奨学生はいませんが、来週の例会では三条北ロータリークラブの奨学生の方にお越しいただき、卓話をさせていただきます。

この教育月間にちなんで、少し教育にまつわるお話をしたいと思います。

以前の挨拶で「千玄室氏の訃報」のことをお話させていただきましたが、その時、ネットで話題になっており、その時に知ったのですが裏千家では「ちゃどう」、表千家では「さどう」と読むのだそうです。

ただ、現在では、どちらの読み方をしても正しいとなっているそうですが、裏千家の方でしたのでちゃどうと読んだそうです。

ほかにも調べてみると、以前とは読み方が違ってきている漢字というのはいくつかあります。

もっとも変化する要因が「音の連想（おんのれんそう）」ということのようです。

これは、ある漢字が他の言葉でよく使われる読み方に引っ張られて、本来とは違う読み方が広まってしまう現象です。たとえば、「ちょうふく」と読むのが正しい「重複」も、「じゅうふく」と読まれることが増えた理由は、「重」という漢字は「じゅうよう」「じゅうりょう」など、「じゅう」と読む熟語がたくさんあるという影響のようです。

また、最近の調査で株式会社Awarefyが2025年8月に実施した調査により、対話型AIの利用が急速に拡大していることが明らかになりました。

具体的には、週に1回以上対話型AIを利用する人の割合が、わずか2ヶ月半で48.9%から81.1%にまで急増しました。また、「気軽に相談できる相手」として対話型AIを選んだ人は87%に上り、親友や母親を大きく上回る結果となりました。

対話型AIが単なるツールを超え、多くの人にとって家族や友人を上回る「身近な相談相手」になっていることがわかります。

その影響なのかわかりませんが、LINEでは最近「AIフレンド」、ニュースにもなっていますが「AI取締役」も始まっています。そのうち「AI会長」がでてきそうな予感です。

本日は第一例会ですので、このあと卓話などはありません。各テーブルで最近の状況などをお話していただければと思います。

◆幹事報告 加藤一芳幹事

◆本日の出席：39名中27名

◆先週までの通算出席率：87.63%

◆メイクアップ：8/25 三条南 RC（夜例会欠席者）

榎本剛彦さん、丸山智さん、松崎孝史さん、田村隆雄

さん>8/26 三条北 RC へ佐々木常行さん、渡辺俊明

さん、星野健司さん、太田義人さん、峰島由紀子さん

>8/27 三条 RC へ田代徳太郎さん、太田義人さん

>8/28 三条東 RC へ太田義人さん、渡辺俊明さん、

星野健司さん、荒澤威彦さん、佐々木常行さん

>国際奉仕フォーラムへ（新潟市）石山昌宏さん

ニコニコボックス

9/1 19,000円 今年度累計 133,000円

本村会長「先日は納涼例会に沢山のご参加ありがとうございました。本日もよろしくお願いいたします」

加藤幹事「9月になってもまだまだ暑い日が続きますが皆様体調にお気をつけください」

野崎さん「本日は田村さん宜しくお願ひ致します」

藤田さん「もう少し涼しくなって欲しいです」

坂井さん 大溪さん 田代さん 荒澤さん 銅冶さん

熊倉さん 永桶さん 渡辺俊さん 坪井さん 石山さん

吉沢さん 関さん 中村さん 榎本さん

「BOXに協力します」

田村さん「BOXにご協力ありがとうございました」

よいことの
ために
手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ(イタリア)

第2560地区ガバナー 室賀 信宏(白根)

第4分区分ガバナー補佐 青柳 修次(燕)

会 長

幹 事

S A A

本 村 譲

加 藤 一 芳

関 博 市

事務局

〒955-8666 三条市町2-5-10

三条信用金庫本店内

TEL 0256-35-3477

FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL https://www.sanjo-minami.jp



クラブ会報副委員長
田村隆雄さん

ロータリーの友 9 月号から、自ら考え行動することの大切さを学んだ 3 つの記事を紹介します。

まず横書き 5 ページから始まる、国際ロータリー新会長のフランチェスコ・アレツツォ氏の「いきなり舞台へ」を紹介します。ご存じの通り彼は、年度開始の 2 週間前に急遽国際ロータリー新会長に任命された方です。

私がこの記事を読んで感じた感想は、イタリア人は非常に箴言、短い文章の中に巧みに教訓を忍ばせることがうまいといわれていますが、新会長も非常に文章がお上手だなという印象を受けました。

8 ページからの文章で、まず、家族は 2 人の娘さんと 2 人のお孫さんがいること、続いてお仕事は子供の歯の矯正医をやっていることが紹介されています。その中で矯正医の仕事は「治療を始める前に、まずは子供たちを理解しようとするのがとても重要です。協力してもらわなければ良い治療はできません。」という件があります。これは、新会長を引き受けるにあたっての決意表明と、世界中のロータリアンへの協力依頼と受け止めました。

次に、代々の家業であるオリーブオイル生産の話題が、唐突に書かれています。品質を保つためには非常に早い時期にオリーブを収穫しなければならず、大手のメーカーが大量に生産しスーパーに卸す商品は品質に劣ることが書かれています。この件はお話としても面白いのですが、10 ページの最初のところの「良質なオリーブオイルを作るには情熱が欠かせないのです」のところも、ロータリー会員に対して期待する取り組み姿勢について暗に示したものと理解できます。

次の段落では、自身が吃音の症状があり会員活動に消極的だったと打ち明けながらも、下から 3 行目のところで「ロータリーは私を変えてくれた」と仰っています。そして、11 ページの最後の段落「動詞」としてのロータリーでは、「ロータリーは、映画館のようにただ座って、誰かが何かをするのを「見る」ために「行く」場所ではありません。ロータリーは、自分で何かを「する」ために「関わる」場所なのです。参加しなければならないのです。」と力強く宣言されています。ロータリーの目的第 3 では「ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること」とありますが、その言葉の意味を考えさせられたメッセージでした。

2 つめは、縦書きの 14 ページ、友愛の広場の奄美中央ロータリーのひさし友絵さんと読むのでしょうか、ネイルサロン業を営む方の「娘と共に歩むロータリー人生」を紹介します。

シングルマザーでロータリアンとして 7 年過ごされているかたの、同じロータリアンへの感謝の気持ちが綴られています。また、最後の方に清掃活動と一緒に参加した娘さんとの会話が記されています。娘さんがロータリーで参加した清掃活動が、自分の住んでいる町がきれいになるから好き」という件があります。これはロータリーの本質についている言葉であり、冒頭に紹介した新会長フランチェスコ・アレツツォ氏の言葉、「ロータリーは自分で何かを「する」ために「関わる」所なのです。参加しなければならないのです。」に見事に呼応していると感じました。

3 つめは、縦書きの 2 ページからの AI 研究者小平 曉雄さんの「生成 AI の全貌」「大規模言語モデルと拡散モデルがもたらす新時代」を紹介しています。私のような文系人間にも非常に分かりやすく書かれており、かつ生成 AI の将来の展望まで言及されています。

まず生成 AI とは何か説明されています。3 ページの写真が分かりやすいのですが、従来の AI は画像を見て犬か猫か判別するというレベルでしたが、生成 AI は「生成」の字が示すとおり、AI が画像や文章そのものを生成するという、創造的なことが行えるようになったということが示されています。次の段落では生成 AI が自らデータを蓄積しながら学習することで、その精度を向上させていることが書かれています。そして、研究者間では既に 2020 年には生成 AI の技術が確立されていたこと、2022 年にオープン AI という企業がチャット機能を利用して生成 AI を商業ベースに落とし込んだことが語られています。

既に皆様の業務で生成 AI を利用されている方もいらっしゃると思いますが、遅ればせながら、当金庫でも 4 ページに紹介されている議事録の要約作業に一部生成 AI を利用しています。将来的には銀行業務の事務規定や要領をすべて生成 AI に落とし込み、チャット機能で営業店の職員が紙ベースの規定集を紐解かなくても、すぐに事務手続きが参照できるようにしたいと考えているところです。

5 ページ中ほどでは、今後の生成 AI の普及と予測される社会的変化について述べられています。著者はそれを「専門技術の民主化」という表現で、様々な業種に影響が及ぶことを予測されています。そして 5 ページ下段の「人の普遍的な価値が求められていく近未来」の章では、人間の普遍的な価値として「決裁権」を挙げています。生成 AI は最終的な責任は取らない、最終的な信頼の部分は人であってほしいと仰っています。

この段階で先ほどのフランチェスコ・アレツツォ氏の横書き 10 ページの紫色の囲みのメッセージ「ロータリーは、自分で何かを「する」ために「関わる」場所なのです。参加しなければならないのです。」と力強くリンクしているように感じました。ロータリーの活動も、生成 AI に対する取り組み姿勢も、会員一人一人の自らの意思で参加し、使命感責任感をもって取り組むことが重要なのではないかと思います。

最後に縦書き 6 ページの最下段の最後の文章で、生成 AI とのこれからの向き合い方について述べられています。「この先は、私自身もそうですが、非常に急速な社会の変化にしっかり対応していかなければならない、そういう時代が来ています」で結ばれています。生成 AI 研究者である著者でさえ、自分自身にも及ぶ急速な社会の変化に、我々も対応していかなければなりません。生成 AI を我々日本人が上手に活用し付加価値の増加と、生産年齢人口減少への影響を緩和する方向で利用していきたい、そんな風に考えさせられた記事でした。

以上 3 点の記事を紹介させていただきました。